

参加無料
事前申込制

民間協力者による社会課題解決 としての再犯防止の取組

～なぜ再犯防止に取り組むのか、その必要性を考える～

犯罪をした人たちが社会復帰するためには、国や地方自治体などの行政機関だけでなく、民間支援者による協力が不可欠です。

今回は、その生きづらさに寄り添い、支援者として地域で受け入れ、再犯防止に取り組まれている元当事者、企業、福祉団体、マスコミの方々にご登壇いただき、それぞれの視点から、幅広く地域の社会課題解決という視点で、取組をご紹介いただきます。また、次世代を担う学生による発表も加え、社会の誰もが我が事として再犯防止と地域による包摂を考えるきっかけとなるよう、民間の立場で何ができるのかを考えていきたいと思います。

日時

令和8年2月14日（土）13時～15時30分

（12～13時ロビーにて一部大学
及びBBSによるパネル発表）

場所

早稲田大学国際会議場
井深大記念ホール

東京都新宿区西早稲田1-20-14
早稲田キャンパス内
(東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩10分)



プログラム

第1部 リレー講演

- 当事者・支援者として～ NPO法人再非行防止サポートセンター愛知 理事長 高坂 朝人 氏
- 事業者の立場から～ 株式会社キズキ 代表取締役社長 安田 祐輔 氏
- 福祉の視点から～ 社会福祉法人邑元会 しびらき 施設長 相浦 卓也 氏
- 社会の目（報道）から～ 読売新聞東京本社 編集委員室 猪熊 律子 氏
- 学生の立場から～ 田園調布学園大学、文京区BBS会、立教大学、早稲田大学 氏

第2部 パネルディスカッション

- ファシリテーター
- パネリスト

早稲田大学法学学術院 教授 小西 暁和 氏
上記講師4名のほか
市原青年矯正センター センター長 稔田 崇 氏

申込方法

【申込期限】令和8年1月22日（木）

下記の登録フォームより必要事項を入力の上、ご登録をお願いいたします。

■URL <https://x.gd/fZIXE>

【必要事項】

- ①参加者氏名 ②メールアドレス ③氏名ふりがな④職種 ⑤所属
- ⑥参加方法（会場またはオンライン）⑦電話番号

同時オンライン
配信



配信方法は、Microsoft Teamsウェビナーです。視聴環境は申込者御自身で御用意ください。

申込先・問合せ先

関東ブロック再犯防止シンポジウム事務局(関東矯正管区更生支援企画課内)

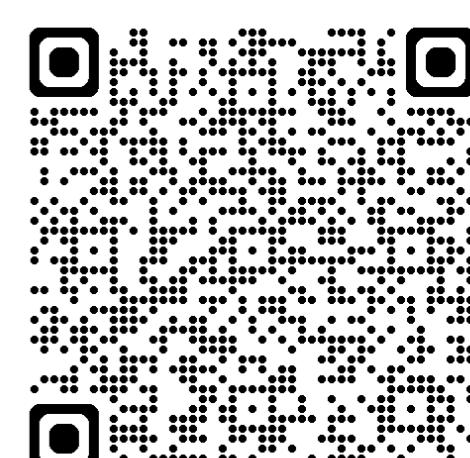
メール:i.kantoukyouseik.dku@i.moj.go.jp 電話:048-600-1560

■主催 東京高等検察庁、東京法務局、関東地方更生保護委員会、関東矯正管区

■後援 関東更生支援ネットワーク

令和7年度
関東ブロック再犯防止シンポジウム

ご登録は
こちらから
↓



講師・パネリスト・コーディネーター紹介



高坂 朝人

NPO法人再非行防止サポートセンター愛知 理事長
保護司、篤志面接委員

講師・パネリスト

元暴走族、暴力団準構成員、少年鑑別所3回、少年院2回、拘置所1回入所、逮捕歴15回。23歳時、妻の妊娠を機に名古屋に転居し暴力団から逃げる。県域を越えて民間団体と連携し非行少年等をサポートしている。
2014年にNPO法人再非行防止サポートセンター愛知を設立。
2015年に自立準備ホームを開所、非行少年等への住まい支援を行う。
2018年にKOSE株式会社を設立、名古屋市にて、グループホーム(2018年～)、就労継続支援B型事業所(2020年～)、相談支援事業所(2023年～)を運営。
2022年3月に、一般社団法人日本自立準備ホーム協議会を設立。



安田 祐輔

株式会社キズキ 代表取締役社長

講師・パネリスト

発達障害によるいじめ、一家離散を経て、偏差値30から学び直し、国際基督教大学卒業後、総合商社に入社するもうつ病で退職。ひきこもり生活を経て、2011年に不登校・中退経験者のための個別指導塾「キズキ共育塾」開塾。2015年に株式会社キズキ設立。2019年うつ病・発達障害の方の就労を支援する「キズキビジネスカレッジ(KBC)」開校。
こども家庭庁・こどもや家庭を支援する実践者に役立つ情報基盤のあり方に関する調査研究有識者委員会委員、新宿区自殺対策総合会議委員等歴任。地方自治体から受託し、生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援等65のプロジェクトを実施。
近著「学校に居場所がないと感じる人のための未来が変わる勉強法」(KADOKAWA)



相浦 順也

社会福祉法人邑元会しびらき 施設長

講師・パネリスト

民間企業等を経て、2013年に社会福祉法人邑元会 障害者支援施設しびらきに入職。2015年から現職。しびらきは現在、埼玉県さいたま市・志木市・朝霞市・白岡市で障害者支援施設、グループホーム、生活介護、就労支援、居宅介護、放課後等デイサービス、相談支援等の事業を実施している。

埼玉県自立支援協議会障害者虐待防止・権利擁護部会委員、さいたま市障害者政策委員会委員、同地域自立支援協議会委員のほか、日本知的障害者福祉協会 調査・研究委員長、埼玉県発達障害福祉協会理事等を務める。



猪熊 律子

読売新聞東京本社 編集委員室

講師・パネリスト

読売新聞社入社後、社会保障部長などを経て、2017年より編集委員室に所属。

専門は社会保障。法務省政策評価有識者会議構成員などを務める。

主な著書「#社会保障、はじめました。」(SCICUS)

「社会保障のグランドデザイン：記者の眼でとらえた「生活保障」構築への新たな視点」(中央法規)

「ボクはやっと認知症のことがわかった」(共著、KADOKAWA)

「堀の中のおばあさん 女性刑務所、刑罰とケアの狭間で」(角川新書)など。



小西 晓和

早稲田大学法学学術院 教授

コーディネーター

専門分野は、刑事政策、少年法、犯罪者処遇法。2015年4月から現職。

神奈川県再犯防止推進会議座長、公益財団法人矯正協会研究アドバイザー、更生保護法人更新会理事、法務省法務総合研究所研究評価検討委員会委員、法務省法務総合研究所犯罪白書研究会委員、公益財団法人全国篤志面接委員連盟評議員等を歴任。

主な著書「日本の矯正・保護を動かす「外の力」とは—特別連続講義全六講と学生の視点」(共編著、成文堂)

「刑事政策の新たな潮流－石川正興先生古稀祝賀論文集」(共編著、成文堂)